

ミッドウェイ

公開記念特集

Cover Photo
Midway © 2019 Midway Island Productions, LLC All Rights Reserved.
© WORLD PHOTO PRESS 2020
※本文中の価格は消費税込みの総額表示です。

CONTENTS

004 第24回 サイゴン物語 Saigon Memories

記者たちのベトナム戦争

The Equipments of the U.S. Force

023 [現用米軍装備カタログ]

'90年代特殊部隊装備特集
1993年 ブラックホーク・ダウン
陸軍特殊部隊装備特集Part 4

図解エンサイクロペディア

032 ミリタリーとファッション

Illustration and text/M. Kelly

WESTERN ARMS リコメンドモデル

038 エクリプス・カスタム& M4A1 PDW マグプル・カスタム

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

046 新製品情報 COMBAT mono

048 東京マルイ ●by Takeo Ishii

ガスガンの過去・現在・未来

Tokyo Marui's Gas-Gun Past, Present & Future

056 トイガンニュース

- タナカ S&W M29 クラシック6 1/2インチ(スチール・フィニッシュVer.3)
- タナカ S&W M29クラシック4インチ(スチール・フィニッシュVer.3)
- タナカ 純正ウッド・グリップ
- WA ポプチャウSP Ver.1.5(ヴィンテージ・エディション)

THE グリーンベレー GREEN BERET

GREEN BERET SUPPORTERS PART1

●文と写真/DJちゅう

066 SHARK SHOOTER LIVE-FIRE REPORT!

EMGカスタム

●by Muneki Samejima

012 作品解説 ●狩野健一郎

014 日本海軍はなぜ敗北を喫したのか——。●菊月俊之

018 ニッポンのちからこぶ【特別篇】世界最強の軍艦 空母 ●菊池雅之



Midway © 2019 Midway Island Productions, LLC All Rights Reserved.

Militaria Roundup!

074 アメリカ海軍 デッキ・ジャケット PART2

シリーズ 懐かしの名銃 ●by Ken Nozawa

080 Walther PPK/s

シン・サバゲ三等兵 増量版

086 暮らしとサバゲに役立つ 射撃テクニック修行体験! Part2

サバゲ三等兵APS部

096 軍事フォトジャーナリスト菊池雅之氏が〜、 赤羽で〜、APSと〜出会った〜。

COMBAT FRONT LINE

008 “攻め”のバッグ[ディスクリート タクティカル トートバッグ]

093 【好評連載】Stringer Blues 写真・文/横田 徹

098 コラム ベトナムを遠く離れて——。文/小倉 徹

100 ツゲチヨリ☆ シューティング武者修行への道

101 レアミリタリーテクノロジー

102 ミリタリーセレクトショップ 坂地組

103 ゲームOTT『Ghost of Tsushima』

109 PRESENT & CIC

110 バックナンバー

111 奥付&次号予告



ミリタリースポッター

ポーランドで実施されている「ディフェンダーヨーロッパ20」の演習は、第2段階に入っている。その演習でもっとも注目を集めたのは、米陸軍のM1エイブラムス主戦戦車による実射訓練である。この戦車の名前の由来は、第2次世界大戦のバルジの戦いで功績のあったクレイトン W. エイブラムス将軍にちなんでいる。

8月11日にポーランドのドロースコ ポモルスキー訓練場で、米軍主導による合同演習「ディフェンダーヨーロッパ20」が行なわれた。訓練は、連合軍とNATO軍が抑止力として機能するために、戦略的即応力を確立することに主眼が置かれていた。同訓練場での演習は、先の6月につづいておこなわれた。今回もCOVID-19の感染拡大を防ぐために、参加人員と訓練内容に修正を加えた内容となった。ところで、今号の本誌のあるページには、戦車の名親になったエイブラムス大将がベトナムで指揮を執る写真がある。

Photo/Pfc. Raekwon Jenkins (US Army Europe)



Midway © 2019 Midway Island Productions, LLC All Rights Reserved.

ミッドウェイ



公開記念特集

第2次世界大戦中の1942年6月5～7日にかけて行なわれたミッドウェイ海戦。ミッドウェイ島攻略をめざす、日本海軍をアメリカ海軍が迎え撃つ形で発生したこの海戦は、第2次世界大戦のターニングポイントともいわれ、両国の明暗をわけることとなる。ローランド・エメリッヒ監督が20年におよぶリサーチを経て、鮮明に描いた話題作『ミッドウェイ』。その公開にあわせ、今月号では海戦の詳細や決戦のカギとなった空母の存在について解説。より深く作品を楽しむために映画館に行く前にぜひ一読を!

構成 / COMBATマガジン編集部

P12-13 作品解説 / 狩野健一郎

P14-17 日本海軍はなぜ敗北を喫したのか / 菊月俊之

P18-19 ニッポンのちからこぶ [特別篇] 世界最強の軍艦 空母 / 菊池雅之

解説／菊月俊之

映画館に行く前に知っておきたい予備知識！ 日本海軍はなぜ敗北を喫したのか。

今秋公開される『ミッドウェイ』は太平洋戦争の分岐点を描いた久々の戦争映画だ。作品は真珠湾攻撃からミッドウェイ海戦までを描いた壮大な内容だが、物語を理解するには若干の知識も必要だ。そこで本稿では映画をより楽しむための予備情報を紹介していこう。



National Archives

山本大将の作戦

真珠湾攻撃で大戦果を収めたとはいえ、連合艦隊司令長官山本五十六大将はアメリカの国力が圧倒的であることを認識しており、その生産力がフル稼働する前に決定的勝利を得る必要を痛感していた。彼は敵艦隊（とくに空母）を撃破すれば太平洋全域の支配が可能となり、アメリカは継戦意思を失って講和に応じると考える。

一方、アメリカ海軍は真珠湾で損傷した戦艦8隻の修理が終わらず（ミッドウェイ海戦時に復帰できたのは3隻）、空母によるヒット・エンド・ラン戦法を採用。開戦時の太平洋艦隊で作戦可能な空母は「サラトガ」、「レキシントン」、「エンタープライズ」の3隻で、就役直後の「ホーネット」は訓練中だった。41年12月末に「ヨークタウン」が大西洋から太平洋に回航され、空母は4隻になるが、42年1月に「サラトガ」が潜水艦「伊6」の雷撃で損傷。ふたたび作戦可能な空母は3隻になる。

1942年2月1日、空母「エンタープライズ」と「ヨークタウン」がマ

ーシャル諸島とギルバート諸島を攻撃。日本側の損害は軽微だったが、アメリカ空母健在を強く印象付けた。そこで空母を誘い出し撃破する作戦構想が生まれる。

連合艦隊の作戦計画

南方資源地帯を攻略する第1段作戦の終了後、連合艦隊は支配領域拡大を目的とした第2段作戦の概要を定めた。それは5月にニューギニア東部のポートモレスビーを攻略（MO作戦）し、6月にミッドウェイを攻略（MI作戦）するというものだった。ミッドウェイはアメリカ軍最西端の前進基地で、これを攻略すれば日本の防衛を強化でき、哨戒機の基地として活用できる。そしてアメリカには必ず保持しなければならない拠点だった。そこでミッドウェイを攻撃してアメリカ艦隊（空母）を誘い出し、圧倒的兵力で撃滅するというのが作戦概要だった。

これに対し、軍令部は①ミッドウェイは遠すぎる、②陸上基地からの航空支援が不可能、③島がアメリカ軍航空機の威力圏内にある、④占領

後の保持が困難、として反対。しかし1942年4月18日のアメリカ軍による日本初空襲で論争に終止符が打たれ、作戦計画が立案される。

解説されていた日本の暗号



National Archives

映画『ミッドウェイ』でも描かれたように、アメリカ軍の勝利には暗号解読が大きく貢献している。アメリカ海軍が日本海軍の暗号解読に着手したのは開戦前からで、ワシントン、ハワイ、フィリピンの3か所に通信

情報センターを設置。IBM社の計算機を使用して1942年3月頃には、日本の「海軍暗号書D」の部分的解析に成功している。その功績者が、ハワイの第14海軍区戦闘情報部長ジョセフ・ロシュフォート中佐で、長い間暗号解読に従事してきた人物だった。

戦闘情報部は入手した情報の断片を繋ぎ合わせ、想像と推理を組み合わせることで日本の作戦構想と計画の糸口をつかみ、次の作戦がポートモレスビー攻略とオーストラリアの制圧に向けられると結論する。

珊瑚海海戦

日本のMO作戦を察知した太平洋艦隊司令官チェスター・ニミッツ大将は、日本軍阻止のため空母「ヨークタウン」と「レキシントン」を基幹とする第17任務部隊（TF17）を珊瑚海へ派遣。1942年5月7日から8日に、史上初の「空母対空母」の戦いである珊瑚海海戦が発生する。

海戦の詳細は省略するが、この戦いに日本側は「翔鶴」「瑞鶴」「祥鳳」の空母3隻を投入。日本側は「祥鳳」が沈没し、「翔鶴」が損傷。アメリカ側は空母「レキシントン」が沈没、「ヨークタウン」が損傷した。海戦は損失の面では日本側の勝利だったが、日本軍は海上からのポートモレスビー攻略を断念。オーストラリアへの兵力増強の阻止は事実上失敗。また空母「翔鶴」と「瑞鶴」の2隻がMI作戦に参加できなくなるなど、結果的にアメリカの勝利だった。



National Archives



National Archives



U.S. Navy

海戦前夜のミッドウェイ島

海戦の舞台となったミッドウェイはハワイ真珠湾から西北西2099キロに位置し、直径約11キロの環礁内のイースター島とサンド島から成る。イースター島には陸上機の滑走路、サンド島には水上機の施設が設けられていた。航空兵力は旧式機が37機だったが、海軍はカタリナ飛行艇30機と、急降下爆撃機と空母から分遣した雷撃機32機を派遣。陸軍も第7航空軍がB-17爆撃機15機、雷撃装置を装備したB-26爆撃機4機を派遣。海戦時には各種飛行機約120機と約3000人の守備隊が駐屯していた。

またニミッツ大将はミッドウェイに映画監督で海軍予備少佐のジョン・フォード（映画劇中に登場）を派遣したが、これは戦いの全体を撮影させるのが目的で、彼は戦争中に戦略事務局の野戦撮影部長に就任。

その任務は記録映画の撮影で、この戦いを記録した『The Battle of Midway』はアカデミー賞のドキュメンタリー部門を授賞している。

日本軍の作戦

- 連合艦隊が立案したミッドウェイ作戦の流れは
- ①潜水艦がハワイとミッドウェイの間に監視線を形成。
 - ②北方部隊が牽制攻撃としてアリューシャン列島のダッチハーバーを空襲。キスカ島とアッツ島を占領する。
 - ③機動部隊がミッドウェイを攻撃して無力化。
 - ④地上部隊がミッドウェイに上陸して占領。
 - ④ミッドウェイ救援のために出撃するアメリカ艦隊を主力部隊が撃滅。というものだった。

ミッドウェイ攻略は陸海軍共同で行なわれ、陸軍は一木清直大佐指揮の一木支隊（歩兵第28連隊を基幹に

National Archives

National Archives



戦闘情報部のロシュフォート中佐は暗号解読で日本軍が次の作戦（MI作戦）を計画中と確信、通信に頻繁に登場する符牒“AF”から日本の攻撃がミッドウェイに向けられると結論した。これに関しては懐疑的な意見もあったが、戦闘情報部の仕掛けた偽通信に日本側が反応したことで“AF”はミッドウェイと判明する。

アメリカ海軍の作戦は日本機動部隊がミッドウェイを攻撃している間に、アメリカ空母攻撃隊が日本空母を攻撃するというものだった。しかしアメリカ海軍は珊瑚海海戦で空母



National Archives



世界最強の軍艦 空母 Aircraft Carrier

『ミッドウェイ』でも戦局を大きく左右した空母の存在——。
その存在は現代においても軍事力の象徴として揺らがない。
世界の空母事情を軍事フォトジャーナリスト、菊池氏に解説してもらった!



この世に空母が誕生してから、海軍力の象徴と言われてきた。
とくに太平洋戦争では、日本海軍は空母の機動力を生かし、パールハーバーの奇襲に成功。
一方、米海軍は、空母の打撃力を生かしミッドウェイ海戦を勝利に導いた。
そして、現代。空母を保有する国はいくつか存在する。
もはや「向かうところ敵なし」とすら言われているのが米空母だ。そのシーパワーに迫る!



空母の戦力は何とんでも航空機。
米海軍ではF/A-18E/Fスーパーホーネットに加え、F-35Cも戦列に加えようとしている。



空母「ロナルド・レーガン」の舷側に制服を着た将兵が整列している。出入港の際の儀礼のひとつだ。





SPECIAL THANKS :Bonz

第179回 [現用米軍装備カタログ]

'90年代特殊部隊装備特集

1993年 ブラックホーク・ダウン

陸軍特殊部隊装備特集 Part 4

(Bonz×Machan企画)

解説:松原隆 撮影:山崎 学
協力ショップ:LAZY CAT、ガミーズ、トイソルジャー、TRI'S (旧特小工房) 協力:Bonz Or(香港)、Alan Wong(香港)、木島秀邦

THE EQUIPMENTS
OF THE U.S. FORCE

ECLIPSE CUSTOM



ウエスタン アームズ(以下:WA)のキンバー・シリーズに、2 トーン・フィニッシュの“エクリプス・カスタム”が登場する。このモデルは、今年初めに発売され、わずか10日間という短期完売を記録した4インチ・モデル、“エクリプス・プロ”のベ

かした高い精度、そしてリーズナブルな価格設定などで市場の話題を呼び、1990年代後半に入ると、近代的な高性能クローン・ガバメントを製作するメーカーとして急成長を遂げた。米海兵隊が採用したマーサックを始め

代的なセミオーが多数

立体的な外観を際立たせた、パワフルなM1911戦闘型2トーンカスタム。

ス・モデル。5インチ・サイズのスライドを備えた、カスタム・モデルだ。高精度ライフルの生産メーカーとして歴史を重ねたキンバーが、クローン・ガバメントの製作に乗り出したのは、1990年代のこと。合理的な製作方法、ライフル生産の経験を活

として、LAPDのSWAT、SISなど、軍・警察、政府機関などが、キンバーのM1911クローンを採用したことで、その名声は揺るぎのないものとなる。ダブル・アクション、ハイキャパシティ、ポリマー・フレームなど、近

存在する現在でも、高度な戦術訓練を受けたプロたちの多くが、キンバーのM1911モデルを好んで使用している。そんな事実から、キンバーのM1911には、精度と機能性をきわめた戦闘型カスタムのイメージが頭に浮かぶ。確かに、シンプルな



リア・サイトは正確に機械加工されたスロットにロー・マウント。サイト・コンビネーションは言うまでもなく、インデックス付きのハイライド・グリップセフティ、スビード・ハンマーなど、外装パーツのデザインも、キンバー・スタイルに統一されている。

- エクリプス・カスタム**
- 全長:約220mm
 - 銃身長:約114mm
 - 重量:約860g
 - 装弾数:21+1発
 - 価格:4万4,000円
 - 絶賛発売中!!

メタル・チャンバーカバーはシンプルな.45ACP刻印。チャンバー内のカートリッジを確認するポートを設けた、キンバー・スタイルを再現している。



東京マルイ ガスガンの 過去・現在・未来

Tokyo Marui's Gas-Gun Past, Present & Future

東京マルイの次世代NEWパワーソース「ノンフロン・ガンパワー」が20%増量されてリニューアル再販! これを契機にもう一度、ガスガンとパワーソースの過去・現在・未来、そして「いま我々にできる事」を考えてみた。

夏の罪悪感

「夏」という言葉から、人はさまざまなモノや情景をイメージする。そして我々エアソフトガン愛好家にとっては「ガスガンの季節」でもある。夏はガスガンが調子良い!

マガジンやタンク内に液化ガスを注入。それが気化する際に発生する圧力をBB弾発射やブローバック作動のエネルギー源=パワーソースとして利用する、というのがガスガンなので、気温は高めな方がパワフルで快調だ。我々はその事を経験的に知っているのだから、夏になるとウキウキする。

一方で、コロナウイルス禍によって全世界が例年とはまったく違う過ごし方を強いられている今年=2020年の夏も、気候に関しては例年通りの異常気象だ。「例年」と「異常」が並んでいるのがスゴく変だが、これからはもうこういうのが普通、と考えなければいけないのかもしれない。短か過ぎる春。異様に長かった梅雨前線の停滞と、各地を襲った豪雨・洪水の被害。そして連日40℃近い猛暑の日々。

いま、世界中で問題になっているこれら異常気象の大きな原因とされているのが「オゾン層破壊」と「地球温暖化」だ。そして我々がガスガンのパワーソースとして使っている各種ガスは、こうした現象と密接に関係してきたのだ、と言われている。

愛用するハンドガンのマガジンにボンベのガスを「チュウッ!」と注入しながら、頭のどこかに罪悪感がよぎる。とくにこう暑いと、筆者はそんな風感じてしまう。

(左) ガンパワー-HFC134aガス (400g) 1,650円
(右) ノンフロン・ガンパワー (300g) 2,178円

※注意! ノンフロン・ガンパワー-HFC134aガスは不燃性だが、ノンフロン・ガンパワーは難燃性(=燃えにくい)が、しかし燃える)なので、室内で使用する際には小さな換気扇を心掛けよう。またどちらのガスも高温下では缶の破裂等の危険がある。車内に放置したり、火気に近づける事は決してしないようにしよう。



ガスガンの魅力

ガスガンには様々な魅力があるが、とくに良い点は他の方式に比べて銃のフォルムや構造、そして操作方法がより実銃に近い事だ。

発火による燃焼と爆発で急激に膨張し強大な圧力を生む化学物質、つまり「火薬」によって実銃は弾を飛ばし、スライドやボルトを作動させる。チェンバーに収まる小さなカートリッジにパワーの源が集約されているのだ。いわば「高効率で極小なエンジンと燃料」が実銃には最初から備わっている。

エアソフトガンに必要とされるエネルギーは実銃の何百分の1程度だろうが、それでも火薬以外の方法によって弾をある程度の初速で飛ばすためにはそれなりの仕組み・仕掛けが必要になる。

手動コッキング式ならばシリンダーとピストンとスプリング。電動ガンならさらにピストンを作動させるギアシステムとモーター、バッテリーの収納スペースも要る。東京マルイはじめメーカー各社は、実銃のフォルムを極力崩さないよう、限られたスペース内にこれらをスッキリ機能的に収納すべく苦心惨憺(くしんさんたん)しているわけだ。

一方、ガスガンの場合は「液体が気化する際の体積差によって生じる圧力」の利用であり、これは発火や燃焼こそ伴わないものの、エンジンと燃料の関係により近い。燃料に相当するガスはBB弾と一緒にマガジン内に、そして放出ノズルやその流路など、ブローバック・システムも含むエンジンは実銃でいうブリーチ(撃発部)に、比較的コンパクトに収まる。

スペース効率を実銃とほぼ同じなので、ガスガン、とくにガスブローバック・モデルではメカニズムや操作方法等も実銃により近くなる。リアルガンの雰囲気や模した精密模型、つまりモデルガンの楽しみ方も、ガスガンなら可能になるのだ。

1995年の発売当時、そのデカさと実射性能でみんなが度肝を抜かれた史上最大のガスブローバック・ハンドガン、東京マルイ「デザートイーグル.50AE」。2003年に現行の「ハードキック版」にマイナーチェンジされ、現在に至っている。

デザートイーグル.50AE
●全長:270mm
●銃身長:136mm
●重量:1,110g
●価格:17,380円
※筆者コレクションモデルのため使用感があります。



上部がそのままマウントベースになった超ヘビー級バレルは大迫力! 可変HOP調整ダイヤルの搭載位置とデザインの素晴らしいのは25年前も現在も感動モノ!

発売当初はスチール製アウターで覆われた15連マガジンだったが、現行のハードキック版は熱伝導効率に優れた亜鉛ダイカスト一体型の27連マガジンに改修されている。古いモデルも時代の変化に合わせて常に進化しているのが東京マルイ製品なのだ。



EMG Custom

トップシューターの製作する 1911/2011の全貌に迫る!

フェニックス・エリアで現在、もっともコンペティション・シューターの人気と信頼を得ているブランド「EMG」の最新作がこちらのモデル。ハイブリット・バレルが搭載されている。

ガンズミスとガンビルダー

皆さんは“ガンズミス”という言葉を知っていますか？ 恐らくは、さまざまな種類の銃器に対応し、銃の組み立てから調整、修理を請け負う仕事を“ガンズミス”とイメージする人が多いのではないだろうか。

日本のトイガンの世界でもガスガンから電動ガン、モデルガンでも調



- EMGカスタム オープン・ガン
- 価格:7,900ドル前後(※仕様により異なる)
- 弾数:23発~30発(※マガジンサイズにより異なる)
- 重量:約1,400g
- 口径:.38スーパーコンブ

EMGカスタムは、外観的には、少し地味かもしれないが、各部が丁寧に制作されており、スライド、フレーム、バレルのフィッティングは、他とは比べ物にならない最高レベルで仕上げられている。各パーツ類も最先端のパーツで構成されている。

エディ氏は現在43歳。ティーンエイジャーの頃からの銃好きであり、21歳になった頃に初めて自分の銃を仲間たちと購入した。ちなみに初めて購入した銃は、S&Wの「シグマ」だったそうで、彼は苦笑いしながら「アレはクラブ（ゴミ）だったよ」と話してくれた。銃を手にした彼は、仲間と共に砂漠に行けばターゲット・シューティングで競っていたそうだ。

そこで、射撃競技の話と聞き、腕試しに最初に出場したのがIDPAだった。1年程度ですぐに頭角を現したが、もっと上の世界を目指し、USPSA/IPSCへの参加を始めた。競争心と探求心の高い彼は、直ぐにGM（グランドマスター）へと登り詰める。その実力を認めた1911の一流ガンズミスであるエド・キャメロン氏に出会い、彼はエディ氏と一緒に1911ブランドを設立しないかと誘いを受ける。エディ氏は、誘いを承諾し、本格的に銃器業界へと進むことになったのだ。エド氏から教えを受けたエディ氏は、ガンズミスとして、そして、各試合でエド・キャメロン・カスタムの銃を宣伝する広告塔シューターとして活躍した。その後、諸事情によりエド・キャメロン・カスタムは、事業を縮小。エディ氏は独立し、自主ブランドの立ち上げを決

整、修理できる人をガンズミスと呼ぶ傾向があると思う。だが、実銃の世界では、現実にはこのようなタイプのガンズミスは、決して多くはない。大抵のガンズミスは、自分のスペシャリティ、つまり専門分野があり、それ以外の調整・修理は引き受けないという場合がほとんどなのだ。

また“ガンズミス”のほかに1911/2011系に関しては、市販の各種パーツを組み合わせて銃を制作する“ガンビルダー”として、生計を立てる人が存在する。今回ご紹介するEMG カスタムも筆者の住むアリゾナ州フェニックスの北に拠点を置く1911/2011専門のガンビルダーだ。

EMG Customとは？

1911/2011系のガンズミス／ガンビルダーは、数多い。その中でも実際に生計を立てられるガンズミスは限られている。そんな厳しい世界でEMGカスタムは、ここ数年競技界で名を轟かせている。まずはオーナーであるエディ・ガルシア氏の経歴からご紹介しよう。



5インチのスライド先端が少しカットされており、軽量化によるスライド・サイクルの高速化が図られている。リコイル・スプリング・ガイドの先端が剥き出しになっているのが分かるだろう。

意した。その後、エディ氏はほかのガンズミスや企業からも助言を受け続け、EMGブランドの信頼性を確立させていった。

EMGカスタムの極意

さて、日本の読者の皆さんも気になるであろういくつかの質問をエディ氏にしてみましたので、インタビュー形式でご紹介しよう。

Muneki: 日本の読者が抱く疑問として“ガンズミス”になる為には、どうしたらいいのかがあると思うんですが、やはり、ガンズミス・スクールへ行くのが一番でしょうか？
Eddie: そんなことはないよ。まずは、どんなガンズミスになりたいか

を決めることだね。専門の銃をどうするかってことだ。俺なんかは、1911/2011専門のガンズミスだ。グロックとかだったら、多少の修理と調整はいいけど、ライフルやショットガンを持って来られてもそれらに関してはお断りするしかないんだ。たとえば、ブレスコット（※アリゾナ州北部の街。ルガーの工場がある。）のヤヴァパイ・カレッジ（※短期／専門大学）には、ガンズミシング科があるけど、そこに行けば、銃器に関する幅広い知識が身に着けられるのは事実だよ。ライフルのストックの製作方法まで学ぶはずだからね。
Muneki: なるほど。では、エディさんは、とくに学校でガンズミスとしての知識を身に付けたわけではな



シリーズ
懐かしの
名銃

Report by Ken Nozawa

Walther PPK/s



日本の、ベテランと呼べるガンファンたちに人気の中型ピストルといえば、この4挺かな。左はマウザーHSc。トリガーガード前部の傾斜がついたフレームデザインは目を引く。左から2番目が今回の主役となるワルサーPPK/sだ。カッコよく、唯一のステンレス製モデルだ。右から2番目はブローニングM1910。ブローニング特集の中でも紹介したけど、安全装置が壊れているのだ。右はベレッタM1934。スライドの上部がザックリと削り取られたデザインは伝統ってことになる。

マグナムを超えたショック 親指の付け根に血が滲んだ...

“懐かしの一挺”と呼ぶには少し新しいイメージが漂うが、実は販売開始は1969年。すでに半世紀以上が過ぎていて、驚かされるのがワルサーPPK/sだ。だからというわけではなく、私の中に、つまりは個人

的に懐かしい思い出があり、今回はワルサーPPK/sを紹介したいのだ。さてさて。ここでワルサーPPK/sの話を進める前に、今回もまたまた、少しばかり昔話をさせてもらうよ。

私が初めて実銃のワルサーPPK/sを撃ったのは、二十歳の誕生日を迎えてすぐのことだった。私は、中学・高校生のころからのガンマニアで、

それが嵩じて、19歳の時に実銃を撃ちたくて大学を休学し渡米したのだ。1979年の春だった。

で、アメリカに着いた後はロサンゼルスの田舎に住んで、文字通りに日本とは別の世界に身をおいていたんだけど、19歳だとガンを買うことができなかった。そうなるアメリカに居てもやることもなく、半年ほ

どして“ヨーロッパを見て回ろうかな...”と、そんな計画を立てたのだ。ただ、苦勞して旅費を工面しての渡米だったので、そのままアメリカを去るのは余りにも寂しく、というか悔しく、どうせなら、アメリカまでたどり着けたという証を自分に残したい、と考えた。

そこで、当時、国際出版の月刊

『GUN』誌でリポーターとして活躍していたイチローさんに何とか会えないかと、私は願った。イチローさんに会えてサインを貰えたら、それだけでも太平洋を渡った意味と価値がある。私は、そう考えたのだ。

ここで少し説明を加えると、イチローさんが『GUN』誌にデビューしたのは1976年の秋。その時、私は高

校2年生だった。

イチローさんの登場によって日本のトイガン業界は大きく変化し、いくつものブームが巻き起こっていったのだが、それはつまり、イチローさんの記事が圧倒的に面白かったことを意味している。これは事実なので書くが、日本のトイガン業界はイチローさんを中心に動いていた。

は思っていなかった。そういう手紙は多いだろうし、縁もゆかりもない一読者を、いちいち相手にできるわけでもない、それはそれでよかった。やはり、自分が納得できる行動を取れたか否かが大事だったのだ。

それからしばらく経って『GUN』誌編集部到手紙を出したことを忘れ

たころ、ナント、その『GUN』誌から返事が届いた！ 嬉しいというより“こんなことがあるのか！”と驚きながら封を切って読むと、それは当時の編集長の坂田さんから、あろうことか、イチローさんの住所と電話番号を伝えてきたのだ。いやいや、それはマズイでしょ！ いくらイチローさんの住所と電話番号を教

私は読者の一人として、ファンの一人として、イチローさんに憧れていたんで、なんとか、アメリカを去る前にサインを貰えないものかと、そう願ったわけだ。

しかし、当然ながら、イチローさんにコンタクトを取りたくても住所も電話番号も分からない。そこで私は、日本の『GUN』誌編集部到手紙

を書いた。その手紙には私のアメリカの住所と電話番号を記した用紙を同封し、それをイチローさんに送って欲しい旨と、私が渡米するまでの経緯とアメリカでの生活、そして今後の予定などをざっと認（したた）めた。

正直『GUN』誌編集部がイチローさんに私の手紙を転送してくれると

えてもらっても、だからといって連絡できるはずもない。“どうする...”

1週間ほど悩んだ末に、私はイチローさんに手紙を書いた。最初に、なぜ、イチローさんの住所を知ったのかを詫言、続けて自己紹介と言えるのかどうか分からないが、自分がどうい人物で、何のためにアメリカ

にやってきたのか、そしてこれからどうしたいのかを、素直に書いた。そして最後に“アメリカを離れる前にイチローさんのサインを頂きたいです”と、纏（まと）めた。

その手紙を出せたことで、もう十分に満足だった。返事など来るはずもない。それは分かっていたが満足だった。少なくとも、読者の一人と



暮らしとサバゲに役立つ 射撃テクニック修行! Part2

写真と文 織本知之 撮影協力 バトンレンジ (https://www.gunsmithbaton.com/)、石井健夫、狩野健一郎



『極太射程^(注)』バトンレンジ編

前回、ガンスミスバトン社が運営する“虎の穴”こと「バトンレンジ」で石井教官の射撃特訓をうけ、メキメキと腕を上げ（※個人の感想です）、バキバキと筋肉に疲労物質をため込ん

だ俺たちサバゲ三等兵（※事実です）。腰が痛い、肩が上がらない、と悲鳴を上げる暇もなく射撃カリキュラムは次なるステージへ！さらなる高みを目指してゆく後編の始まりです！

（注）本文よりも力の入った極大注釈：S-ハンターの名著『極大射程』へのオマージュです。ごめんなさい、ごめんなさい。ところで『極大射程』とはベトナム戦争で功績をあげた狙撃手。ポブ・リー・スワガーが活躍するサスペンス巨編。男子だったら一度は読め、そして読み終わったらすぐ二度目に入れ！二度目が終わって気付いた時には、三度目に突入している！というぐらいの名作。そしてこの業界、サバゲ、射撃レンジ界隈ではファンが多く、しかしそのわりにその人々はポブ・リーのようにひっそりとしているので目立たないというスナイパー気質。が、ときおり会話するフレーズの一端からソレと分かるときがあり、ファン同士が気づくとお互いニヤリとする場合があり、筆者も一度ならず取材でサバゲで、APSカップ会場でそういった会話を楽しんだことがあります。というわけで、この小説、控えめいっても最高っす！

実践的射撃テクニック上級編



愛弟子となったシェフ狩野と1枚のバリエードを共にする石井教官。パディと息を合わせ互いの射線の交錯をかわしつつ、同時に複数の相手に対峙する！



この時、ヘタに離れたカバーで不意に立ち上がった味方のドタマを撃ち抜かないよう、身体を寄せるか肩に手をかけて合図するのがコツだ。ソーシャルディスタンス？ そんなもん新型コロナごと撃ち抜いてやらあ（※出演者撮影スタッフ一同、すぐに手洗いうがい消毒で感染予防に努めております）！

左へスイッチしてもふたりの息はびったり。健×2コンビ（上・石井健夫教官。下、三等兵狩野健一郎）！

